

さが「福祉施設のいのちを守る」避難タイムライン様式&検討シート

アップデート情報

■ 令和4年7月版

気象庁は、令和4年6月の出水期から防災気象情報の伝え方を改善しました。また、佐賀県は令和4年3月に想定し得る最大規模の高潮による高潮浸水想定を公表しました。

これに伴い、令和3年度に作成した『さが「福祉施設のいのちを守る」避難タイムライン』（令和4年2月版）の検討シート及び様式の一部内容を更新しました。主な更新内容は下記のとおりです。

（1）線状降水帯による大雨の可能性を半日程度前からの呼びかけ

現段階では、佐賀県を含む「九州北部」の広い範囲を対象とした予測情報です。必ずしも佐賀県内で線状降水帯が発生するとは限りませんが、大雨が予想され九州北部で線状降水帯が発生する可能性が高いと呼びかけられた場合には、災害モード意識に切り替えて大雨に備えることが大切です。

そこで、様式3：集中豪雨を対象とした避難タイムラインのタイムラインレベル2に、「九州北部地方で線状降水帯が発生する可能性がある」と発表されたとき」を追加しました。

（2）キキクル（危険度分布）「黒」の新設と「うす紫」と「濃い紫」の統合

様式の記入例に、土砂災害時の避難のタイミングの一例として、「土砂キキクルで、施設がある地域で「うす紫」（非常に危険）が出現したとき」を示していました。キキクル（危険度分布）の「うす紫」と「濃い紫」が統合されたことに伴い、土砂災害からの避難タイミングの一例を「土砂キキクルで、施設がある地域で「紫」（危険）が出現したとき」と修正します。

※新たに公表された想定し得る最大規模の高潮による浸水想定を確認しましょう。

※新たに改善された情報も含めて、避難のタイミングを改めて各施設で再検討しましょう。

■ 令和5年5月版

最新の防災気象情報を反映させるため、『さが「福祉施設のいのちを守る」避難タイムライン』（令和4年7月版）の様式の一部内容を更新しました。主な更新内容は下記のとおりです。

（1）高潮に関する早期注意情報の運用開始

令和4年9月から、気象庁は5日先までの警報級の高潮となる可能性を、早期注意情報（警報級の可能性）として毎日発表することにしました。

そこで、台風を対象とした避難タイムラインのうち浸水想定区域に該当する施設向けの様式2-1と様式2-2に、タイムラインの発動基準の早期注意情報に「高潮」を追加しました。

▼気象庁資料：警報級の高潮となる可能性を5日前からお知らせします～高潮に関する早期注意情報の運用開始～

https://www.jma.go.jp/jma/press/2208/23a/takashiosouki_20220823.html

（2）洪水キキクルと水害リスクラインを一体化

令和5年2月から、気象庁は地域の洪水の危険度を一元的に確認できるよう、これまで別々に提供してきた「洪水警報の危険度分布」（洪水キキクル）と「国管理河川の洪水の危険度分布」（水害リスクライン）を気象庁ホームページ上で一体的に表示することにしました。

そこで、タイムラインレベル別の情報収集先サイト一覧の様式4-1と様式4-2に掲載していた、洪水キキクルの凡例の図を差し替えました。

▼気象庁資料：大河川から中小河川まで地域の洪水の危険度が一目で分かります～洪水キキクルと水害リスクラインを一体化～

https://www.jma.go.jp/jma/press/2302/09b/press_riskline.html